

伴奏付き新曲視唱課題について

はじめに

楽譜から情報を得て演奏表現をする音楽家にとって、譜面上の音符や記号の意味を読み取る作業は、より早く、正確である必要があります。

伴奏付きの新曲視唱課題は、旋律を一人で歌唱するだけでなく、伴奏とともに即時的にアンサンブルとして音楽を成立させる能力の向上を目的としています。

課題の実施について

課題実施の方法は、次のような流れで行います。

1. 学習者は楽譜（旋律譜）を、ピアノなどで音を確認せずに予見を行う。
2. 無伴奏で歌唱する。
3. 伴奏とともに歌唱する。

予見の時間は、曲の長さや難易度によって、数10秒から2，3分程度を目安に設定します。

歌唱では音程やフレーズ感、ディナーミクなどの演奏指示に細心の注意を払う必要があります。

2の、「伴奏を用いない歌唱」はせずに、3の伴奏付きのアンサンブルに移っても差し支えありません。

また、学習の方法や、学習者の習熟度によって、1～3の課題の実施開始時に、適宜、主和音や主音を聴き、音や調性感を確認することも必要に応じて行われるべきでしょう。

eqhor music labo Tokyo の課題では、伴奏パートなどの参考音源を用意しています。

各課題の、①旋律のみ ②伴奏と旋律 ③伴奏のみ の参考音源をセットにしてYouTubeに公開しています。例えば、自習で課題を実施する場面、伴奏者が用意できない場合などにご活用ください。

代表的な課題集

●Adolphe Danhauser : SOLFEGE DES SOLFEGES (Lemoine)

長きにわたり教育現場で使用されてきたフランスの歴史ある教材です。数冊にわたり、調性や音部記号あるいは演奏形態別にまとめられています。

●Noël Gallon : SOLFEGE PROGRESSIF (Max Eschig)

” : SEIZE LECONS DE SOLFEGE (Lemoine) など

パリ音楽院の名教師として知られる、ノエル＝ギャロンの課題集です。いくつかの出版社から様々なスタイルの課題集が出されており、好んで用いられています。